



s a k u r a

さくらめえる

ma i l

第 62 号 (26 年度第 2 号)

平成 26 年 9 月 3 日 (水)

さくら幼稚園 園長 片岡 大助
[みどりご園副園長・さくらんぼ園長]

平成 27 年度スタートの「子ども子育て支援新制度」とさくら学園の方針と理念

さくら幼稚園

27 年度は、新制度（施設型給付）には移行せず現行通り、私立幼稚園として保育料（授業料）を徴収し私学助成及び保護者の方への就園奨励費補助で運営してまいります。

新制度に移行しない場合も「施設型給付を受けない幼稚園に対する私学助成及び幼稚園就園奨励費補助の充実に努めるものとする」と、国会で付帯決議されましたので、文科省の予算編成の過程が注目されるところです。宮城県内の私立幼稚園は 80%以上が現行のままとなるようです。但し、28 年度以降につきましては、新制度施行によってさまざまな変化が出てくることを踏まえて、柔軟な対応を考えていくこととなります。

* 継続してさくら幼稚園に通園する園児は、現在のところ特に手続きは必要ありません。前号のさくらめえるでもご説明した通り、保育料（授業料）の内訳が変わります。延長預かり保育のわかばコースもこれまで通りです。

* 27 年度に入園を希望する幼児は、10 月 1 日から願書を受付けますので、直接幼稚園事務所に提出して下さい。9/10（水）10 時 30 分から幼稚園開放日の中で幼稚園の入園説明会を幼稚園舎で行います。ご希望の方または募集要項がほしい方は、ご連絡下さい。

認可保育所 みどりご園

27 年度は、認定こども園には移行せず現行通り、私立保育園として運営してまいります。今年度の入所決定が通知された時点で、認可保育所を希望して入れなかった乳幼児は約 150 名でした。その子たちが認可外保育施設や幼稚園に入園して、いわゆる待機児童は国基準を下回ったようですが、保育所を希望する家庭は、まだ右肩上がりの状態が続いているようです。継続でみどりご園を希望される家庭は、園を通して申込に必要な書類が配布されます。10 月の広報とめにも要項がくわしく掲載されますので、必ずご確認下さい。心配なことがありましたら、いつでもご相談下さい。

小規模保育施設 たんぽぽ保育園

26 年 4 月 7 日に認可外保育施設たんぽぽ保育園として開園しました。主にみどりご園を希望して入園できなかった 1・2 歳児で、あっという間に定員に達してしまいました。27 年度に、新制度の目玉である「地域型保育事業：小規模保育事業 A 型」の認可を受けるための準備を着々と進めております。今年度は、認可の一步手前の補助事業として認められましたので、現在少しでも保育料負担の軽減を図れるようにと、検討しているところです。2 歳児までの保育所ですので、3 歳になったら連携施設としてさくら幼稚園とみどりご園への入園が可能です。

みどりご園と同様に、登米市の市民課または子育て支援課に入園申込みをして審査となりますので、新たに申込み方は提出書類と期日をご確認ください。

新制度では、教育・保育を利用する子どもについて3つの区分の認定が設定。

設定区分	内 容		利用先
1号認定	教育標準時間認定 満3歳以上	お子さんが満3歳以上で、教育を希望される場合。幼稚園の預かり保育利用はできません。	幼稚園・認定こども園
2号認定	満3歳以上・保育認定 (満3歳・3・4・5歳児)	お子さんが満3歳以上で「保育の必要な事由」に該当し、保育所等で保育を希望される場合。	保育所・認定こども園
3号認定	満3歳未満・保育認定 (0・1・2歳児)	お子さんが満3歳未満で「保育の必要な事由」に該当し、保育所等で保育を希望される場合。	保育所・認定こども園 小規模保育施設等

1号認定は、幼稚園等を通して市に申請し、幼稚園等を通して市から認定証が交付される予定です。

2・3号認定は、保護者の方が市に「保育の必要性」の認定を申請 → 市から認定証の交付(2・3号認定) → 保育所利用申し込み(希望施設記載) → 市で利用調整(審査) → 利用先(入園)の決定後契約

27年度は75人定員の認可保育所1園。0歳～2歳児までの19人定員の小規模保育施設が5～7園位認可される予定です。受け皿がぐんと増えますので、多少混乱も予想されますが、新制度の目的のひとつ“保育の量的拡大・確保”は、登米市でも達成されるのではないかと思います。

さて新制度の目的の第一は、“質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供”と示されています。施設が増えるほど、選択の幅も増えますので、施設の見学や教育・保育内容の確認など、早目に情報を収集されることが大切かと思えます。



さくら学園 教育理念

学校法人さくら学園は 未来に活躍する子供たちが
幸福を築くための根っこの部分をしっかりと創る教育を行います。
おひさまのように、子供ひとりひとりにたっぷりとひかりを注ぎます。

さくら学園は、学校法人としての教育理念を掲げて、3施設の教職員がしっかりと力と心を合わせて子供たちの幸せのために努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

Jim Grieve カナダ オンタリオ州教育省 乳幼児教育担当 副大臣 / 講演概要

が
引
き
下
ま
し
は
筆
者

も
号
の
立
こ
の
に
私
幼
の
掲
幼
稚
記
載
時
園
事
一
さ
報
連
は
部
れ
9
合
、
抜
た
月
会
私

未来を担う子どもたち ～幼児の発達に関する国際的研究動向と実践～

(公財) 全日私幼研究機構 縦断研究チーム 平林 祥

■学校での学びから、人生を過ごす準備へ

私が保育に関わるようになった当初の目標は、「子どもたちが学校に行った時に学ぶ準備ができてい

る」ことでした。しかし、研究により、生まれた瞬間から子どもたちは学び始めている存在だということが明らかになり、「子どもたちが就学する準備ができてい

る」ことに目標は変わりました。今では、学ぶ準備や就学準備などとは考えていません。「子どもたちが、一生を過ごす準備ができるようにしたい」ということが目標です。人生の最初の6～12年をうまく過ごすことが出来れば、人生の軌跡は非常に肯定的なものとなります。

これまでの研究で、高い質の保育が、健康面と経済面で長期的に肯定的な影響を与えることが分かっています。アメリカ公衆衛生誌(American



Journal of Public Health) では、高い保育の質が子どもに与える直接的な健康への影響と、それによって生涯にわたり得られる健康面での利益についての研究が掲載されていました。